

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立六角小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究を中心として、「学び合い活動」を授業の中に位置付け、効果的な方法を探ったところ、児童の肯定的な回答が、中間で81%、最終で91%と上昇した。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・「自分や友達頑張りがよさを認めたり、見つけたりすることができる」と回答した児童が、昨年度より7%上昇し、96%となった。自他のよさを見つめる活動を大切にするとともに、活動の振り返りを充実させた成果だと考える。 ・学校創立150周年記念行事実行委員会等、児童の活躍の機会を大切に、実践の場を補償するとともに、振り返り等に取り組ませたい。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成 ～ きらり チャレンジ チーム六角っ子 ～
3 本年度の重点目標	① チーム担任制による横と縦のつながりを意識した確かで豊かな学び ② 違いや失敗を認め合い、努力や取組の過程を大切にすることの設定 ③ 学校・地域・家庭との共有・交流・実践による学校文化の錬磨

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者				
(1)共通評価項目												
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	学校関係者評価	意見や提言
●学力の向上	●学力の向上	○確かな学力をつけるために、分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○問題への書き込み活動を行うことで、必要な情報を整理したり自分の考えをもったりすることができる児童を80%以上 ○授業づくりステップ1・2・3の「書く活動」を意識し、ステップを向上することができる教師を85%以上	・児童に「書く活動」の視点をもたせ、定期的に自己の学びを振り返ることができるようにする。 ・問題への書き込みの仕方の共通理解を図り、継続をすることで基礎基本の定着に結び付け授業作りを行う。	A	・問題の書き込み活動に対する肯定的な回答をした児童は86%であった。 ・授業づくりステップ1・2・3の「書く活動」を意識し、維持・向上が見られた教師が90%であった。	A	・問題の書き込み活動に対する肯定的な回答をした児童は82%であった。 ・授業づくりステップ1・2・3の「書く活動」を意識し、維持・向上が見られた教師が100%であった。	A	・目標数値である80%を生徒及び教師の両方が達成していることはすばらしい。特に教師が100%であったことはすごいと思う。 ・「書く活動」に焦点化した学習指導はよいことだと思う。	かしく部	
		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達の頑張りがよさを認めたり、見つけたりすることができる」と回答した児童を85%以上 ○「相手を思いやる言動ができ、協力することができる」と回答して児童が80%以上	・自分や友達の行動や作品等の良いところを見つけ教育活動の中で意図的に行うことで、認め合う心を育てる。 ・あいさつ運動、平和学習、人権週間などを通して、思いやりや協力する心を育てる。	B	・児童の自己評価は93%と高かった。しかし、思いやることや協力することの必要性を感じてはいても、実際には実践できずにいる児童もいる。	B	・数値目標よりは高かったが、中間より89%と下がっていた。正しい言葉遣いが大事なことではあるが、遊びの中で叱咤に発した言葉がトラブルの基になることもあり、今後も指導を継続していく必要がある。	B	・児童アンケート4回でも気持ちのよいあいさつをしている自分や友達のよいところやがんばりを見つめることができる9割以上が「あてはまる」と回答しているので評価できる。 ・児童の自己評価は高い。互いを認め合うことを「見える化」する手立てなどの工夫を。	やさしく部	
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上	・いじめの対応についての研修、会議、特別支援・生徒指導連絡会を計画的に行う。 ・「児童理解シート」の活用と「心の元気づけチェック」・年間2回の教育相談週間等を実施することで教育相談体制の充実を図る。	A	・夏季休業時に「いじめの対応について」の研修会を行い、いじめについての理解を深め、指導の充実を図った。 ・「心の元気づけチェック」を定期的に行い、いじめ等問題行動への早期対応に努めた。	A	・「心の元気づけチェックカード」や教育相談週間、清潔検査などで児童の心の状態の把握をすることで、いじめ等問題行動の早期発見に努め、特に大きいいじめ事案はなかった。	A	・いじめ防止対策委員会でもお世話になっています。その時に伺う先生方のお話からも目配り、気配り、対応の早さを感じられる。 ・いじめについては、いくら研修などを行っても目に見えるものが全てではないことを理解すべきであり、良いと見えるのは氷山の一角とらえ常にもさぐすべき。	たくましく部	
●心の教育	●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・児童への一日ひと褒めを実践する。 ・キャリアパスポート等を活用し、自分の成長や頑張りを振り返る学習活動を特別活動の時間を中心に計画的に取り入れる。	B	・児童に積極的に声をかけたり、コメントを書き入れたりすることが、児童の自己肯定感の高まりにつながっている。 ・各活動で児童にめあてを持たせることで、めあてを意識して活動することができる児童が増えた。	A	・教師の意図的な働きかけによって、児童の自己肯定感を高めることができた。 ・「自分の目標を決めて、生活や学習に取り組んでいる。」と答えた児童が92%だった。各活動で児童にめあてを持たせることを継続して設定してきた効果が表れた。	A	・「自分や友だちのよいところや頑張りをみつめることのできる」児童が95%近く、「先生が自分のよいところをわかってくれていると思う」児童が90%近くいることはすばらしい。(アンケートより) ・児童自身が自分の「居場所」を持つことは大切だと思う。	やさしく部	
		○お互いを認め合い、努力や取組の過程を大切にすることの教育活動	○「自分や友達の頑張りがよさを認めたり、見つけたりすることができる」と回答した児童を85%以上	・認め合うことを中心に据えた学級経営を行うことによって、児童の意欲に自己肯定感を高める。	B	・帰りの会や学習の振り返りの中で友達のよさを見つめる時間を設定していることで、自他のよさに気づいたり、発見したりする場になっている。	A	・「自分や友だちのよいところやがんばりを見つめることができる。」と答えた児童が93%だった。自他のよさに気づいたり、発見したりする場を継続して設定することができた。	A	・「自分や友だちのよいところや頑張りをみつめることのできる」児童が95%近く、「先生が自分のよいところをわかってくれていると思う」児童が90%近くいることはすばらしい。(アンケートより) ・児童自身が自分の「居場所」を持つことは大切だと思う。	やさしく部	
		●「望ましい生活習慣の形成」	○「自分の子供が起床・就寝時間を守ろうとしている。」と回答した保護者を85%以上	・毎週の清潔検査で自己の生活を振り返ることができるようにする。 ・保護者に対しては、「六角っ子ががんばろう週間」を通して生活習慣の定着を働きかける。清潔検査や生活アンケートの結果を伝えることで、課題等を共有し、家庭との連携を図る。	A	・清潔検査で自己の生活を振り返り替えさせ、夏季休業前に結果を保護者に配布し、保護者との連携を図った。 ・「六角っ子ががんばろう週間」の取り組みで起床・就寝時間を記録させることで自己の生活を振り返らせ、保護者にも意識づけをすることができた。	A	・児童アンケートの歯みがき習慣や生活リズムが整っているかの設問に対し、95%の児童が肯定的な回答をしており、清潔検査での自己の振り返りや「六角っ子ががんばろう週間」で、望ましい生活習慣の意識づけができた。	A	・児童へのアンケートで90%以上の児童が「歯みがき」「生活リズム」に気をつけて生活できているからいいなと思った。 ・児童アンケート①②③早起き朝ごはんなど…気をつけている96% 保護者アンケート⑤お子さんは起床・就寝時刻を守ろうとしている87%。このことから、保護者の評価がやや厳しいのかと感じた。	たくましく部	
●健康・体づくり	●健康・体づくり	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。	・年6回の登校班チェックをして指導を充実させる。	A	・登校班チェックを通して、安全な登下校を意識づけことができた。また、登校の際に危険な行動が見られた際は登校班ごとに指導ができた。	A	・児童アンケートの廊下歩行や登下校での安全についての設問に対し、90%の児童が肯定的な回答をしており、安全に関する意識の高まりがみられる。	A	・アンケートで90%の児童が肯定的な回答をしている。校内での廊下歩行の様子を見ても落ち着いている。 ・児童が安全な登下校を認識していることは良い事で、命を大切にしたい。	たくましく部	
		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数1.4日以上	・放課後の時間が有効に活用できるよう、各種会議等について開始終了時刻の徹底と短縮への事前の働きかけを行う。 ・職員研修の年間計画を作成し、長期休業中に集中しないように努める。	B	・開始時刻と終了時刻の厳守を徹底してきた。会議資料の事前配付熟読と効率的な提案を工夫することができるようになり、職員の意識が高まりつつある。	A	・会議での効率的な提案を工夫することができるようになり、職員の意識が高まりつつある。 ・PTA会長様の指導・助言・支援の下、PTA活動の業務効率化ができたおかげで、管理職の時間外在校時間が短縮した。	A	・職員会議や研修については時間が遵守できているようだが、やはり行事の期などは遅くまで仕事をされているようだ。努力されているのは分かっています。 ・教職員の心身の安定は、子ども達への質の高い指導や豊かな関わりにつながる。引き続き時間外勤務の削減や年次取得に努め、心にゆとりをもって教育活動に専念できる職場環境を整えていきたい。	管理職	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○ウェルビーイングな働き方の共有	○チーム担任制の良さを実感する職員を80%以上	・定時退勤日の遵守とウェルビーイングな働き方を意識し、協働を大切にすることを目指す。	B	・職員の70%が、時間外在校等時間上限を遵守することができている。 ・町内一斉定時退勤日には、全員が一斉に退勤ができるように計画的な職務遂行の言葉掛けをしていく。	B	・定時退勤については、グループ長や各部長が、率先垂範して実行している様相がみられた。 ・職員の80%が、時間外在校等時間上限を遵守することができている。中間評価の数値よりも上昇した。	A	・チーム担任制により校長先生の話から先生方が学びを得やすくなったのはよかった。 ・子どもにとって複数の先生の直に関われることが出来、楽しい。余裕ができた。気軽に話せる先生が増えた。内心、とまどっている子もいる。	管理職	
		●特別支援教育の充実	○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・児童向け、職員向けに特別支援に関する研修会を実施し児童の相互理解、職員の児童理解を深める。 ・月1回の特別支援・生徒指導連絡会で、児童に関する情報や効果的な対応の方法を共有する。 ・児童の実態に応じてケース会議を開催し、よりよい支援体制づくりを図る。	A	・研修会を実施しているが、更に継続的な実施と意識の共有が必要と感じる。 ・個別の支援が必要な児童に関する情報共有、対応を行っているところである。 ・教育相談と連携しながらケース会議を開催している。	A	・研修会や月1回の特別支援・生徒指導連絡会で共通理解ができ、共通実践できているように感じました。 ・ケース会議の開催など行い情報共有し、全職員が学び向上している。	A	特別支援教育C	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者			
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	学校関係者評価	意見や提言
○主体的に学び共に伸びる子どもの育成	○自己判断・決定・行動の機会の設定	○「特別活動を通して、自己有用感を感じている」と回答した児童を85%以上	・個々の良さを生かすためのグループ活動や縦断り活動等を計画的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間や学級活動などと関連づけ、児童の主体的な活動を促したり、場を設定したりする。	・150周年記念式典への取組を通して、児童の良さを生かすためのグループ活動を行うことができた。 ・児童も主体的に活動することができた。	A	・150周年記念式典への取組を通して、児童の良さを生かすためのグループ活動を行うことができた。 ・児童も主体的に活動することができた。	A	・学級担任や行事や活動の担当者などで、場の設定や意識づけを工夫することができ、特に上級生は、リーダーとして下級生の世話や委員会活動等、責任感を持って活動する場面が多く見られた。		A	・1年生から6年生まで、みんながいるいな役割を担って、元気に活動していたように思う。(集会などの時しか見ていませんが…)	教務
○地域・家庭との共有・交流・実践	○郷土愛を育む地域や人を活用した体験活動の整理と充実	○「地域や社会をよくするために何をすべきかかんがえることができる」と回答した児童を90%以上	・学校行事や教科、総合的な学習の時間等で地域の教材（人・もの・こと）を活用する。 ・コミュニティ・スクールの推進と教育地域人材を発掘するために地域づくり協議会との連携を図る。	・全学年が総合的な学習の時間や生活科の学習等で地域の教材（人・もの・こと）を活用することができた。 ・コミュニティ・スクールの推進と教育地域人材を発掘するために地域づくり協議会との連携が必要である。	A	・全学年が総合的な学習の時間や生活科の学習等で地域の教材（人・もの・こと）を活用することができた。 ・コミュニティ・スクールの推進と教育地域人材を発掘するために地域づくり協議会との連携が必要である。	A	・学校行事や総合的な学習の時間等で地域の教材（人・もの・こと）を活用することができた。 ・コミュニティ・スクールの推進と教育地域人材を発掘するために地域づくり協議会との連携が必要である。	A	・150周年記念行事は子どもたちにとってよい経験になったと思う。昨年作られた歌には六角の歴史が盛り込んであるし、今年の式典では卒業生の先輩のお話を聞けたり、地域の方々ともふれ合ったりして、郷土への思いが芽生えたことと思う。	管理職	
5 総合評価・次年度への展望	① チーム担任制のメリットを生かして、学級や学年を超えた横と縦のつながりを意識した確かで豊かな教育活動の展開を図る。 ② 「ほめるからはじめ」、一人ひとりの頑張りがよさを知り、お互いの違いや失敗を認め合いなど、努力や取組の過程を大切にすることの設定の工夫を図る。 ③ 学校・地域・家庭との交流を密にし、共通した理念のもとに、創立150年を経た歴史に培われた連綿と受け継がれる伝統と学校文化の錬磨を図る。											

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育